

毎月１日発行
発行所　むらさき学園
発行者　家田光信
住　所　〒617-0814
長岡京市今里 5－12－9
TEL（075）953 － 0505
・ホームページＵＲＬ
http:／／www.sepia.dti.ne.jp／~yoh-murasaki／
・Eメールアドレス
yoh-murasaki@jasper.dti.ne.jp

― むらさき幼稚園らしさ ―

園長　家田　美里

ご入園・ご進級おめでとうございます

むらさき幼稚園へようこそ。今日からむらさきの「自由・自在・自然」の保育が始まります。これは漢文だそうです。この自由・自在は「私達は自分の思いのままに操れる」といった意味で使っています。直訳しますと「今の私が在るのは今までの私の生き方に由る、それが自然だ」というものです。「非認知能力」と言われる知らず知らずに遊びを通し身体が体験すること、ままごと遊びを通して、ままごと遊び→真似ごと遊び→真似び、これが「自由・自在」を自然にと申している「学ぶ」の語源になった言葉です。「自然」の反対語が「人口」になります。これは人が意図したことを行動に移すことだそうです。しかし全て自然のままに…は難しいことですので、可能な限りの自然な育ちを求めるのがむらさきの保育なのだと思ってください。と歴代理事長・隆現先生や光信先生の受けうりになっています。むらさきでは主体性を育くむ事を徹底して考えております。子どもの遊びに目を向けてみると、大人では考えつかない発想でいっぱいですよね。その発想を一つ一つ見つけていけたらと思っています。

昨年の5月です。乙訓地区の幼稚園の先生達の実践研修がありました。砂場研修です。私と担任4人の5人で参加しました。バケツにぎゅうぎゅうに砂を詰めてひっくり返します。大小2つを重ねると砂の城の土台ができました。そこからヘラやコテを使って仕上げていきます。堀を作り橋を渡したり、牛乳パックで階段を作って…と私達もどんどん夢中になり、研修の時間だけでは足りないくらいでした。しかし、出来上がった作品はなんか普通すぎてあまりおもしろ味がありません。いつもは園で子ども達が「こうしよう！」と言って、いろいろ考え遊んでいる時の方がおもしろいなあと思いました。コテを使ってみると、キレイに仕上がりました。でもむらさきだったらどうなるかな?…コテも山や海の一部になりそう。砂場でコテはこうやって使いましょう、と言われたら「なんで?」と聞き返し自分たちの使いたいように使って遊ぶのだろうな、と思いました。研修の最後は「園に帰ったら園児さん達と今日学んだ事を実践してみてください」で終わりました。「うちで実践してみても…」と全員が思っていました。次の日になり子ども達は登園するやいなやすぐに砂場に向かいました。遊びが始まりスコップで山を作っている人・水を運んで貯めている人などみんな好きに遊んでいました。そこへ担任が「みんなみて！せんせいすごいのつくれるねん」などと言いながら、カップに砂をぎゅうぎゅうと詰めひっくり返し、見た目がとてもキレイなケーキをつくって見せました。そのキレイなケーキはどうなったと思いますか?

続きは2面へ…

	月のねらい	解説
四月	**往還二相**（おうげんにそう） 入園、進級を喜び、園生活に親しもう	仏法僧の三宝に敬う形が右手、左手を合わす合掌であり、自分自身を大切にするとともに他人を敬うこと。これは保育者と幼児の信頼関係樹立に結びつく。
五月	**安心立命**（あんじんりゅうめい） きまりを守り安定した園生活を楽しもう	親の安心、保育者の安心から幼児の安心が生まれる。心安らかなればやる気みずから生じる。自己を充実する事により、幸せは自ら築いて行くものである。
六月	**悉有仏性**（しつうぶっしょう） 見るもの、聞くもの全てから学ぼう	自分の生命を大切にすることと同様に、他の人間及び人間以外の全ての生物を大切にすることは、幼児の情操に大きな影響を及ぼす。
七月	**和顔愛語**（わげんあいご） だれにも親切にしよう	どんな時にも明るい笑顔を忘れない態度に社会性が芽ばえる。約束が結ばれると集団の秩序が保たれる。このような社会生活の中で個が育つという相乗作用が生まれてくる。

１面の続きです

だいたい想像がつく保護者の方もおられると思います。「ドン！ドン！」あっという間にグーで潰されてしましました。そして担任との掛け合いで一遊びして自分達の遊びに戻っていきました。誰もこの面白くなさそうな遊びには乗らず、もっと魅力的な水遊びを豪快に遊んでいました。

このエピソードを私達は嬉しく感じています。むらさきの子ども達は「これを作りましょう。今から歌を唄いましょう」と指示をしてもらわなくても、自分のやりたい事は自分で考え遊べる子ども達です。私達は遊び方を教えません。改めてむらさきっ子の凄さを実感しました。

隆現先生や光信先生によく言われていた事があります。「子ども達がする遊びを勿体ないと思ってはいけない」と。１番わかりやすいのが水遊びです。水道は全開で、頭のてっぺんからつま先までビショ濡れです。一日に何度着替えても追いつきません（お心当たりのある保護者の方は、たくさん着替えを持たせてくださいね）本人達はとても楽しそうで、ゲラゲラ大笑いしながら頭から水をかぶっています。その楽しそうな笑い声を聞きつけ一人増え二人増え。最初に「みずがもったいないからやめてー」と言ってしまっていたらこの遊びはこんなに広がっていません。更に枝分かれのようにベビーバスに水を貯めて遊ぶ人、ペットボトルに入れて園庭を走り回り水かけっこをする人など新しい水遊びも始まりました。一言に「水遊び」と言いましてもこんなに違う遊びができるのです。しかし最後はみんな同じで口唇が紫色になりお風呂へ直行です。何と言ってもむらさきの水遊びは大胆です。水を流しっぱなしにするのならどこかに貯めて遊んでもらったらいいのでは？と考え排水溝に軽く蓋をしてみました。水は溜まりましたがそれでは面白くないのでこの提案はすぐに却下されました。彼らは全開にした水がタイルに当たり、この水しぶきを浴びるのが楽しかったのです。20年程前は蛇口の先がくるっと１回りできていました。保護者の方も小学校にありませんでしたか？水を大きく出してアーチの下をくぐって遊んでませんでしたか？蛇口を上に向けて全開にすると、今のしろはとのくみや職員室は直で水が入り水浸し、乾かすのがとても大変でした。それともう１つ私達によくいわれていた事が「雑談や無駄話は大切である」でした。子ども達が帰った後に毎日掃除をしています。その時に今日あった事を話し、楽しかった事や泣いていた事、驚いた事など些細な事ばかりです。そんな些細な事を話すのがとても楽しいのです。時には担任が嬉しさのあまり「美里先生！今日初めて○ちゃんがうがいができたんです。すごいでしょう」と報告に来ました。そんな事を話しているなら１分でも早く掃除を終わらせたらいいのに…と思われそうですが、聞いている私もうれしいのです。放課後に会議を行います。行事の打ち合わせやクラスの様子を話し合います。しばらく会議を進めていくと、だんだん話がそれていき、気が付くと全く関係ない話で盛り上がっていました。このご時世「働き方改革」により効率よく働き、定時で帰ろうと努力しているのに時代の流れに逆らうかのような無駄話!?いやいや人との関わり、話をする事により職員の仲が深まっている事は確実ですし、最近は「ポチッ」とするだけで買い物ができたりもします。こうやって人と話さなくても何でもできてしまう世の中になっていますが、やはり心は淋しいですよね。直接顔を見てるから、声を聞いているから伝わることはたくさんあります。なのでむらさきでは朝の欠席の連絡を電話連絡にしていただいております。お父さんやお母さんの声で様子がよくわかります。時には「ようちえん、いきたくない」という日には直接担任から声をかけれます。保護者の方とのコミュニケーションも朝から始まっています。今日から令和７年度が始まります。私の園長２年目もスタートです。むらさきの風景はいつも通り大胆な水遊びから始まるかな？勿体ないと思わず保護者のみなさまとたくさん話し（駄弁って）子ども達の成長を見守っていきましょう。よろしくお願いいたします。

